

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 11 月 4 日 (2005.11.4)

【公開番号】特開 2001-81215 (P2001-81215A)

【公開日】平成 13 年 3 月 27 日 (2001.3.27)

【出願番号】特願 平 11-264153

【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 J 7/00

B 3 2 B 27/36

B 3 2 B 31/20

C 0 8 J 5/18

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 77/12

【F I】

C 0 8 J 7/00 3 0 1

C 0 8 J 7/00 C F D

B 3 2 B 27/36

B 3 2 B 31/20

C 0 8 J 5/18 C F D

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 77/12

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 8 月 9 日 (2005.8.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

( 5 ) 耐摩耗性

耐摩耗性は、フィルムの表面に、表面を布で覆った 1 0 × 1 5 m m の大きさの摩耗子を載せ、5 0 0 g の荷重を負荷しながら、3 0 m m の距離を往復して 1 時間連続走査し、摩耗子に付着するフィルムの量により評価した。そして、フィルムが多量に付着し、その量が 5 0 m g 以上の場合を x、フィルムが全く付着せず、その量が 0 m g の場合を、その中間をとして表した。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 2】

以上の比較例に対し、実施例 1 ~ 4 に示すように、多段階所望にわたる熱処理を施すことにより、フィルムの耐熱温度は、熱処理前のもの ( 比較例 1 ) に対し 1 0 0 以上も高い 3 5 0 以上にまで高められる。このため、F P C への部品実装時に、該 F P C をハンダ浴に浸漬するような場合でも、変形などが発生せず、良好な実装が行える。しかも、実施例 1 の ( 3 ) から明らかなように、フィルムは熱処理により処理時間を長くすると溶解ピーク温度 T A が順次上昇し、これに準じて熱変形温度 T d e f も上昇するので、フィルムの第 n 段階での熱処理によって、もはや溶融しない状態のフィルムを得ることもできる

。また、実施例 1 ~ 4 に示すように、多段階にわたる熱処理を施すことにより、耐熱性および耐摩耗性に優れ、しかも接着強度および寸法安定性に優れた積層体が得られる。